

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	7		国の定めた基準以上の広さを確保しています。	活動スペースが仕切られていない構造のため、バージョンの活用や机の配置の工夫をして、落ち着いて学習に臨める環境づくりに取り組んでいきます。
	2	7		国の定めた配置基準以上の職員を配置しています。全員が児童発達支援管理責任者・保育士・児童指導員等の資格を有しています。	今後も基準を満たしたうえで、職員数を適切に配置できるように努めていきます。
	3	5	2	完全なバリアフリーではありませんが、室内はほぼ段差がなく、移動に支障のない造りになっています。	通路の広さが十分でないため、車椅子利用の児童の受け入れ希望があった場合には、必要に応じて環境整備を検討していきます。
業務改善	4	7		毎日全職員で打ち合わせを行っており、前日のことを振り返り、当日の療育内容や担当などを確認しています。また、毎月のレクレーション会議を実施し、日々の反省や改善点について話し合いを行っています。会議の記録を共有し、後から振り返ることができるようにしています。	定期的な話し合いに加えて、毎日の記録や会議録、資料をまとめたファイルを活用し、日々の情報共有を心がけていきます。
	5	7		年に一度のアンケート調査を実施し、保護者様のご意見を確認しています。全職員で情報共有をしながら、業務改善につなげています。	保護者様のご意見をもとに、よりよい事業所、よりよい療育となるよう今後も継続して取り組んでいきます。
	6	7		この自己評価の結果を、事業所の会報や公式 Web サイト等で公開している。	今後も公式 Web サイトで公開してまいります。
	7	5	2	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。	第三者による外部評価については今後の課題として検討してまいります。
	8	7	1	年間計画を立て、定期的に事業所内で研修を行っており、職員の資質向上の機会を確保しています。	外部機関の研修などにも職員が参加できるように努め、資質向上へとつなげていきます。
	9	7		児童発達支援管理責任者が中心となり、アセスメントをもとに児童・保護者様のニーズを把握し、児童の現状に合った支援計画を作成しています。	今後も訪問・面談により適切なアセスメントを行い、計画へ反映させていきます。
適切な支援の提供	10	7		社内共通フォーマットのアセスメントシートを使用しています。保護者様から細かい情報を聞き取り、記録し、計画作成に活かしています。	今後もアセスメントツールを活用し、児童の状況やニーズの把握に努めます。
	11	7		管理者・児童発達支援管理者・保育士・児童指導員・作業療法士、それぞれの立場から意見を出し合い、プログラムを立案しています。	今後も全職員で話し合い、児童に合ったよりよいプログラムを考えていきます。また、近隣にある事業所の事例も参考にし、さまざまな活動を取り入れていきます。
	12	7		継続の必要な活動もありますが、その季節に合わせた製作やイベントなどを毎月取り入れ、固定化しないよう心がけています。	季節や時事的なこと、個々の成長にも合わせ、活動プログラムが固定化しないよう配慮し
	13	7		平日は、放課後の限られた時間となるため、学習面を中心に支援しています。長期休暇中は、児童各々の課題に合った活動とともに、集団で楽しめる活動・季節のイベントなどを取り入れています。	感染症予防や児童の安全に留意しながらも、特に長期休暇中は時間に余裕があるため、普段できないプログラムや児童同士が交流できる活動に積極的に取り組んでいきます。
	14	7		児童の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している。	今後も、児童の状況や時間帯、特性も考慮し、個別活動と集団活動のどちらもバランスよく組み合わせさせていただきます。
	15	7		支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	職員それぞれの専門的な意見を踏まえて話し合い、適切な支援内容・役割分担を決めています。
	16	7		支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	毎日の振り返りをもとに、全員で情報共有したうえで、よりよい支援・療育に努めます。
	17	7		日々の支援内容には必ず記録に残しています。また、支援を行う前に必ず以前の記録に目を通し、様子の詳細や疑問点を職員同士で話し、児童の実態を把握してから支援に臨んでいます。	児童の課題に対してどんな支援を行いどんな成果があったのかなど、詳しく記録するように心がけていますが、より具体的に分かりやすい記述の仕方について話し合っています。
	18	7		定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している。	児童本人、保護者様、支援を行う職員、相談支援員、その他関係機関など広く情報収集して分析できるようにしていきます。
	19	7		ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている。	今後も基本的な活動を中心に、固定化や偏りが無いように心がけます。楽しみながらも成長につながるような活動や支援を提供します。
	関係機関や保護者様との連携	20	7		担当者会議には、児童発達支援管理責任者が必ず出席しています。会議前には、職員への聞き取りを行い、事業所代表として確実に情報提供できるようにしています。
21		7		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、児童の下落時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている。	保護者様や学校担任の先生方とも積極的に連携をとり、送迎時のトラブルを減らし、適切に対処していきます。
22		7		医療的ケアが必要な児童は、児童の主治医等と連絡体制を整えている。	事業所は重症心身障害以外の児童が対象となっていることもあり、今後受け入れ体制があった場合は、慎重に検討し、受け入れ体制・事業所のあり方について模索してまいります。
23		7		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている。	今後も継続して児童が利用していた関係機関・事業所との連携を大切に、情報共有していきます。
24		7		学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している。	今後、対象となる児童が卒業する際には、関係機関等へ必要な情報を提供し、移行先での活動に役立てていただけるようにします。
25		7		児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	今後も関係機関とは積極的に連携していきま。積極的に研修等へも参加し、密に連携を取ることができるよう努めます。
26		7		放課後児童クラブや児童館との交流など外部との活動する機会がある。	保護者様のご意見を伺いながら、地域との交流を検討していきます。
27		7		（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している。	研修や講義などの場に積極的に参加し、職員の能力向上につなげていきます。
28		7		日頃から児童の状況を保護者様と伝え合い、児童の発達状況や課題について共通理解を持っている。	今後も連絡帳、送迎時などさまざまな手段や機会を作って情報共有を行えるよう調整していきます。
29		7		保護者様の対応力の向上を図る観点から、保護者様に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている。	今後も保護者様とのよりよい信頼関係を築き、お話を傾聴し、日頃の支援に活かせるよう努めます。また、事業所からの積極的な働きかけも行っています。
保護者様への説明責任等		30	7		運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。
	31	7		保護者様からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	今後もご相談に適切に対応できるように努めるとともに、事業所での利用の様子をお伝えするなど、事業所からも積極的に関わることを心がけます。
	32	7		父母の会の活動を支援したりするなどにより、保護者様同士の連携を支援している。	保護者様のご意見を伺いながら、保護者様参加型の活動の機会を検討していきます。
	33	7		児童や保護者様からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者様に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している。	保護者様からのご意見には、積極的に耳を傾け、すばやく丁寧に対応できるよう努めます。また、日頃から連携しやすい関係・環境づくりに努めます。
	34	7		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を児童や保護者様に対して発信している。	今後も情報の発信を継続し、保護者様に直接ご案内し、児童の活動を知っていただくよう努めます。また、今後も行事予定などは連絡帳や毎月のカレンダーに掲載して周知していきます。
	35	7		個人情報の取扱いに十分注意している。	書類だけでなくブログ掲載など情報発信の場合にも、細心の注意を払って個人情報の取り扱いや保管を行います。
	36	7		障がいのある児童や保護者様との意思の疎通や情報伝達のための配慮を行っている。	今後も児童の特性や状況に合った言葉かけや手段を使い、十分に配慮できるように心がけます。保護者様にさらに丁寧な説明や情報伝達を行うとともに、丁寧な説明や情報伝達を行い、扱いや保管を行います。
	37	7		事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている。	保護者様のご意見を伺いながら、地域との交流を検討していきます。
	38	7		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者様に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している。	事業所内の研修時や避難訓練時など、職員が必ずマニュアルを再確認して行動を振り返ることができるよう努めます。保護者様には、契約時にご覧いただいておりますが、今後も積極的にお知らせしていきます。
	39	7		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	すべての児童が複数の訓練に参加できるよう日程等を調整し、継続して実施していきます。
	非常時等の対応	40	7		定期的な職員研修を行い、虐待防止の理解と意識向上に努めています。
41		7		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、協議的に決定し、児童や保護者様に事前十分に説明を待たして、放課後等デイサービス計画に記載している。	今後も原則として身体拘束を行わない基本の姿勢を守り、適切に支援していきます。緊急時などのやむを得ない状況では、保護者様に十分に説明を行い、同意を得て、個別支援計画にも記載します。
42		7		食物アレルギーのある児童について、医師の指示書に基づく対応がされている。	今後も児童の特性や状況に合った言葉かけや手段を使い、十分に配慮できるように心がけます。必要に応じて医師の指示書に基づいた対応を全職員に周知・徹底していきます。
43		7		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している。	今後もヒヤリハットが発生した場合、すぐに記録と情報共有を行います。過去の事例集の振り返りも定期的実施し、事故が起らない安全な環境・態勢づくりに努めます。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。